

谷川岳山行報告

- 【山行日】 2014年 7月 12(土) 晴れ時々曇り
【集 合】 岩舟町役場P AM 4:00
【費 用】 マイカー2台 : 4,000円
【メンバー】 A CL:鈴木、岩淵、梶内、島田、関、福田
B CL:大西、石田、田村



【コースタイム】A: 岩舟町役場P4:00=谷川ベースプラザ 5:40/5:55~西黒尾根登山口 6:10~鉄塔 6:40~ラクダノ背 8:40~トマの耳 10:50~オキの耳 11:10~肩の小屋 11:40/12:20~熊穴沢避難小屋 13:30~天神平 14:20+++土合口 14:40=岩舟町役場P16:50

B: 野木町石田宅 4:30=谷川ベースプラザ 6:30~土合口 7:10+++天神平 7:20+++天神峠 7:30~熊穴沢避難小屋 9:00~トマの耳 10:45~肩の小屋 11:15 後はAコースと同じ

谷川岳に登りたいとリクエストがあり、参加者の体力に合わせ「A:西黒尾根コース」と「B:天神尾根コース」の二班に分けて登ることにした。ロープウェイの始発が7:00なのでB班はメンバーピッ



クアップとし、野木町を4:30出発とした。A班は岩舟町役場を4:00に出発し、予定より早く5:30に谷川ベースプラザに着く。ベースプラザ駐車場はロープウェイ営業時間に合わせ、7:00からの利用になっているが、1F部分は24H利用可となっており退出時に料金を精算する。

谷川岳指導センターに寄り、登山計画書を提出する。

指導センターから少し登ると西黒尾根登山口の標識があ

る。登山口からすぐに急登となり、「エ〜いきなりこんな急登なの。」と不満の声。でも樹林帯の登りは涼しくて静かで、気持ちが落ち着く。

前日の雨で滑りやすい箇所があり、足を取られないようにゆっくり登る。やがて送電線の鉄塔がある台地に出て、ここで休憩し衣服調整する。広葉樹林帯の中でのじめじめした急登を、ひたすら登ると汗がしたたり落ち休憩をとる。冷たいスイカで喉を潤し休んでいると、後から登って来たグループに次々と追い越されてゆく。



さらに樹林帯の中を登ると、尾根上に飛び出し視界が開け天

神平のロープウェイ駅や天神峠、高倉山などの眺望が得られる。気持ちよい尾根を進むと、ラクダ



の背への岩稜が現れてクサリ場となる。先行者がクサリ場に慣れてないらしく、しばらく待たされる。我々のパーティは難なく通過し、Kさんや新人のIさんは「楽しくて疲れは全然感じません。」と言っていた。尾根にはイブキジャコウソウやコイワカガミ、コバギボウシ等の花が目を楽しませてくれる。ラクダの背のピークからは正面にこれから登るトマの耳・オキの耳の双耳峰、右側にはマチガ沢雪渓やシンセン岩峰の絶景が広がる。



マチガ沢からは涼風が吹き上げてきて気持ちが良い。いつもはガスで遮られ、谷川岳やマチガ沢の眺望が見られないことが多いが、今日は絶景を見ながら登れとてもラッキー。

一旦ガレ沢のコルまで下り、ここでマチガ沢側からの巖剛新道と合わさる。コルからこれから登る登山道を見上げると、「あんな急な登山道を登れるの。？」と不安の声があ

がるくらい急峻な岩稜だ。

一步一步ゆっくりしたペースで登り、高度を稼いで行く。一つのピークを越えると、またその先に次のピークが現れる。痩せた岩尾根を進むと、やがて氷河の跡が残る大きな岩の上に出る。

さらにクサリ場のある急な岩場を登ると、ザンゲ岩と呼ばれる大岩の横に行く。ひと頑張りして、小さくなった雪田を横切ると、ケルンの上に道標がある分岐に着き、右のトマの耳方面に進む。

天神尾根コースの3名は、時間的にはもう着いている頃と思っていたら、頂上から元気な声が出た。

トマの耳頂上でお互いの健闘を称え合い、記念の写真を撮り休憩をとる。山頂は多くの登山者で溢れており、落ち着いて景色を楽しむ事が出来ない。ここからオキの耳まで登る班と、昼食を食べる肩の小屋へ降りる班に分かれて行動する。オキの耳への登山道も、これから登る人と降りてくる人が交錯し、しばし渋滞しながらやっと山頂に着く。山頂で記念写真を撮り、



マチガ沢や一ノ倉沢の眺望を楽しみ下山する。肩の小屋までの登山道も、登ってくる人と交錯し、なかなか進まない。やっと肩の小屋にたどり着くと、先に下った人たちが一番良い場所を確保しておいてくれた。早速テーブルに御馳走を広げる。今日の山ごはんは、暑くなることを予測し特製冷麦にした。錦糸卵や味付エノキタケ、ミョウガや大葉等をトッピングし美味しく戴く。万太郎山や仙ノ倉岳方面への雄大な稜線を眺めながら至福のひと時。出発前にトイレに寄ると、ここも長蛇の列が出来ていた。トイレに寄らない人たちは、先行して降りてもらい後から追いかける。肩の広場も多くの人で溢れており、登山道も下山者と登山者でつながっていた。熊穴沢避難小屋で先行したグループと



合流し、最後の休憩を取る。定番の熱いコーヒーにバームクーヘンは、疲れた体を癒してくれた。ここからは緩やかな下りと登りを繰り返しながら、天神平に降りて行く。途中つい先ほどまで登っていた山頂が良く見える場所に出た。

「エ〜〜さっきまであそこに居たの。？」「信じられないね〜〜」と会話が弾む。

天神平からのロープウェイは新しくなっていた。ロープ

ウェイから対岸の白毛門や笠ヶ岳、朝日岳の眺望が素晴らしい。「来年は向こうに登って、谷川岳を見てみたいね。」と会話が弾む。

谷川ベースプラザでご褒美のソフトクリームを食べて帰路につく。

途中、渋滞もなく順調に走り、予定よりも30分早く岩舟町役場に着いた。